

小学校6学年 体育科 跳び箱運動

授業者：七飯町立大中山小学校教諭

菅原 俊介 (渡島教育研究所所員)

神野藤 均

山崎 志穂

1 単元の目標

○知識及び技能

・跳び箱運動の行い方を理解するとともに、自己の能力に適した繰り返し系や回転系の基本的な技を安定して行ったり、発展技を行ったりすることができるようにする。

○思考力, 判断力, 表現力等

・自己の能力に適した課題を見つけ、課題解決の方法を考えるとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。

○学びに向かう力, 人間性等

・運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や、器械・器具の安全に気を配ったりすることができるようにする。

2 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
次の運動の行い方を理解しているとともに、その技を身に付けている。 ●跳び箱運動では、繰り返し系や回転系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったりしている。	自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	運動に積極的に取り組もうとし、約束を守り助け合って運動をしようとしていたり、仲間の考えや取組を認めようとしていたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりしている。

3 単元のルーブリック

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	●複数の発展技ができる等。	●必要な場をつくるなどして、練習をしている等。 ●自分の技にもアドバイスを生かそうとしている等。	●ルールやマナーを理解し、規範意識をもって行動することができる等。 ●跳ぶ前に、跳び箱やマットの安全を確かめている等。
B	●基本的な技を、助走から踏み切り・着手・着地まで、スムーズにかつ安定して跳び越えることができる。 ●自分の力に合った発展技ができる。	●現状に合わせた技や場の選択をして、課題を解決するために必要な練習をしている。 ●友達の技を見て、アドバイスをすることができる。	●自分のできる技以外の技に取り組んだり、技の正確さを高めたりしようとしている。
C	【児童への支援】 ●技マップの「これをやればできる」を示し、スモールステップで技の達成を目指すようにする。	【児童への支援】 ●技マップの吹き出しに書かれているポイントを参考にし、友達にアドバイスさせる。	【児童への支援】 ●児童の実態に合った場を紹介し、意欲的に取り組めるようにする。

4 単元計画

時数	学習目標(○)と学習内容		評価計画			
			知技	思判表	主学態	方法
1	○ <u>今の力で跳び箱を跳んでみよう</u> 跳び箱運動の学習内容を知り、自分がどの程度技ができるのかを知る。			○		観察
2	○ <u>技のポイントを確認しよう</u>	切り返し系の技のポイントを知ったり、こつを見つけたりする。	○			観察
3		回転系の技のポイントを知ったり、こつを見つけたりする。	○			観察
4	○ <u>評価基準をつくろう</u> 跳び箱運動の評価基準をつくり、何を意識して学習に取り組むのかを知る。		○			発表
5	○ <u>いろいろな技に挑戦しよう</u> 色々な技を試し、自分の挑戦課題を見つける。				○	観察 OPPA
6	○ <u>友達にアドバイスをしよう</u> 友達との技の出来栄を見合ったり、こつを伝え合ったりする。			○		観察 OPPA
7 【本時】	○ <u>自分の力に合った技を安定してできるようになろう</u> 挑戦課題の技を、安定して跳ぶことができるようにする。		○			観察 OPPA
8	○ <u>発表会に向けて自分の技を磨こう</u> 友達からアドバイスをもらいながら、発表会に向けて自分の技を上達させる。		○			観察 OPPA
9	○ <u>発表会で練習の成果をひろおうしよう</u> クラス内で自分の技を披露する。		○			観察 OPPA

5 本時案

本時の目標

自己の能力に適した技を選び、安定して跳ぶことができる。【知識・技能】

■本時の展開

	時	学習活動と児童の姿(○)	教師の支援(■)と評価(●)
場の準備		場の準備	
準備運動	5分	今日の学習につながる準備運動をする	■けがを防止するための柔軟運動を行う。
お試し タイム	6分	自己の学習課題と今の出来栄を確認する ○技マップに基づいて、様々な技に挑戦し、自分の課題を確認する。	■技マップを見ながら、多様な技に挑戦させる。
めあての 確認 課題の 設定	5分	学習のめあてを確認する ○前時の学習を振り返り、本時の学習の見通しをもつ。	■めあてと学習の流れを示し、学習の見通しがもてるようにする。
		め 自分の力にあった技を安定してできるようになる	
		自己の課題を設定する ○自分の能力に適した挑戦課題を選ぶ。	■お試しタイムを経て、どの技に挑戦するのか、どんなところに気を付けて跳ぶのかを、児童に設定させる。
チャレンジ タイム	20分	練習方法を工夫して、課題解決に取り組む ○友達からアドバイスをもらったり、技のチェックをしたりして、自分の課題とする技ができるようになる。	■跳ぶ前に挑戦する技や、見てもらうポイントをアドバイザーに伝えてから跳ばせる。 ■跳べなかったり、意欲的に取り組めなかったりする児童には、技マップの「これをやればできる」や様々な場を紹介し、取り組めるようにする。 ■友達のよさを伝えるように促す
まとめ タイム	9分	学習の成果を確認し、称賛しあう ○同じ段の友達に、今日の成果を発表し、称賛しあう。	●挑戦課題の技を安定して跳ぶことができた。(観察・OPPA)
振り返り		本時の学習を振り返る ○学習で工夫したこと、意識したこと、次時への課題を振り返る。	
片付け		場の片付け	

評価場面です

